

カレー【curry -ꣳ kari】

多種類の香辛料を併用して食材を味付けするというインド料理の特徴的な調理法を用いた料理に対する英語名。

転じて、それを元にしたヨーロッパ系の料理や、同様に多種の香辛料を併用して味付けされる東南アジアなどの料理も指す。

日本では、明治時代に当時インド亜大陸の殆どを統治していたイギリスから、イギリス料理として伝わった。

それを元に改良されたカレーライス（ライスカレーとも）は洋食として普及している。

インド系、東南アジア系、洋食系の何れも現在では国際的に人気のある料理のひとつとなり、ヨーロッパや北米、中南米、アフリカ、オセアニアなど、世界中でカレー文化が根付いていることが確認されている。



ゴルトベルク変奏曲【へんそうきょく -Gol】

ヨハン・ゼバスティアン・バッハによるアリアとその変奏曲からなる2段の手鍵盤のチェンバロのための練習曲 (BWV 988)。

全4巻からなる「クラヴィア練習曲集」の第4巻であり、1741年に出版された。

バッハ自身による表題は「

2段鍵盤付きクラヴィチェンバロのためのアリアと種々の変奏

」

「アリアと種々の変奏」と題されているが、バッハが音楽を手ほどきしたヨハン・ゴットリーブ・ゴルトベルク(de:Johann Gottlieb Goldberg)が不眠症に悩むヘルマン・カール・フォン・カイザーリンク伯爵(de:Hermann Carl von Keyserlingk)のためにこの曲を演奏したという逸話から「ゴルトベルク変奏曲」の俗称で知られている。

しかし演奏には高度な技術が必要で、当時ゴルトベルクは14歳の少年であったことなどから逸話については懐疑的な見方が多い。

ピアノが主流となった時代から20世紀初頭まで演奏されることは少なかったが、ワグネル・ランドフスカがモダンチェンバロによる演奏を録音し、高く評価された。

グレン・グールドはレコード会社に反対されながらもデビュー盤にこの曲を選択、1956年にリリースされたピアノ演奏のレコードは世界的な大ヒットとなった。

グールドについては、1982年の急逝の直前の1981年に行ったこの曲のデジタル再録音も広く知られている。

グールドのデビュー盤以来、変奏曲としては長大で、しかも高度な対位法技術を用いて作られた難解なこの曲が脚光を浴び、チェンバロやピアノのみならず、編曲を施してギターや弦楽合奏などの種々の編成、さらにジャズでも演奏されるようになっていく。

この変奏曲は以下の低音主題に基づいている。



バナナ【みばしょう】

バショウ科バショウ属のうち、果実を食用とする品種の総称。

また、その果実のこと。

いくつかの原種から育種された多年性植物。

種によっては熟すまでは毒を持つものもある。

日本では古くは**芭蕉**と呼ばれたが、実を食するものは**実芭蕉**（みばしょう）とも呼ばれる。

漢名は「香蕉」

食用果実として非常に重要で、2009年の全世界での年間生産量は生食用バナナが9581万トン、料理用バナナが3581万トンで、総計では1億3262万トンにのぼる。

アジアやラテンアメリカの熱帯域で大規模に栽培されているほか、東アフリカや中央アフリカでは主食として小規模ながら広く栽培が行われている。

また、花を料理に使う地域もあり、葉は皿代わりにしたり、包んで蒸すための材料にしたりするほか、屋根の材料などとしても利用される。

2010年代では、新バナナ病の蔓延により生産量の減少が報道されている。



移動【いどう】

ある場所から他の場所へと位置を変えることである。

なお、地位や身分、職務が変わることは**異動**（いどう）の語が用いられる。



地理座標【または地図座標】

幾何学において、**座標**（ざひょう）とは、点の位置を指定するために与えられる数の組

(coordinates)、あるいはその各数 (coordinate) のことであり、その組から点の位置を定める方法を与えるものが**座標系**（ざひょうけい、英: coordinate system）である。

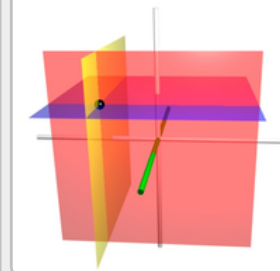
座標系と座標が与えられれば、点はただ一つに定まる。

座標は点により定まる関数の組であって、一つの空間に複数の座標系が重複して定義されていることがある。

例えば、多様体は各点の近くでユークリッド空間と同様の座標系が貼り付けられているが、ほとんどの場合、一つの座標系の座標だけを考慮していたのでは全ての点を特定することができない。

このような場合は、たくさんの座標系を貼り付けて、重なる部分での読み替えの方法を記した**地図帳**（アトラス、atlas）を用意することもある。

地球上の位置を表す**地理座標** や、天体に対して天球上の位置を表す**天球座標** がある。



コミュニケーション【communication】

交流（こうりゅう）とは、

1. 社会生活を営む人間の間で行われる知覚・感情・思考の伝達。
2. （生物学）動物個体間での、身振りや音声・匂い等による情報の伝達。

原語がcommunicationなのでカタカナで表記する場合は「コミュニケーション」である（出典：広辞苑）。

大辞泉)



クリック ②

click

- カチッという音。
- コンピューターで、マウスなどのポインティングデバイスを使って画面上のカーソルを希望するアイコンに移動し、ボタンを押してすぐ離す操作。
- (音声学で) 吸着音。

クリック

Francis Harry Compton Crick

[1916~2004] イギリスの分子生物学者。ワトソンと共同で DNA の二重螺旋 (らせん) 分子構造モデルを提出。

ほうほう ほうはふ ① 【方法】

ある目的を達するためのやり方。しかた。手段。

<子項目>

方法的
方法的懷疑
方法特許
方法論

カレー ①

curry

- 淡黄色粉末の、非常に辛みのある香辛料。クミン・カルダモン・シナモン・生姜 (しょうが) ・コエンドロ・黒胡椒・唐辛子・フェヌグリーク・ターメリックなど30~40種の香辛料を配合して作る。インドが主産地で、熱帯諸国で盛んに用いる。カレー粉。
- ①を用いて作った料理。特に、カレー-ライスのソース。
- カレー-ライスの略。

<子項目>

カレー粉
カレーライス

カレー

Calais

フランスの北端、ドーバー海峡に臨む港湾都市。ユーロトンネルの入り口。レースやチュール織の特産で名高い。

こまぎれ ① 【細切れ・小間切れ】

- 細かく切ること。また、そのもの。「一の情報」
- 牛・豚肉の裁ち落としの肉。

アラート ②

alert

警報。

カーボン ①

carbon

- 炭素。
- 電極に使う炭素棒。
- 「カーボン紙」の略。

<子項目>

カーボン紙
カーボン写真
カーボンデューティング
カーボンナノチューブ
カーボンファイバー
カーボンブラック
カーボンマイクロホン
カーボンロッド

C

- 等級の3番目。
- (創案者 Celsius の頭文字から) 摂氏の温度であることを表す記号。°C。
- アメリカ・イギリス・ドイツの音名の一 (ドイツ語読みはツェー)。八調長音階の第1音「ド」、日本音名の「ハ」。また、4分の4拍子の記号。
- 【Century】世紀を表す記号。
- 【carbon】炭素の元素記号。
- ローマ数字の100。
- 【coulomb】電気量の単位クーロンを表す記号。
- 【オランダ・cyan】青緑色を表す記号。シアンの略。
- 衣料品の、胸囲あるいはチェストを表す記号。

じぎげ ぢぎー ① 【直下】

すぐ下。ちよっか。「一に人の魂を見るとき」
(虞美人草・漱石)

ちよっか ちよくー ① 【直下】

(名) スル

- ました。まっすぐ下。↔直上。「赤道一」
- まっすぐ下りること。「急転一」「一川の水、総束せられて一す」(十和田湖・桂月)
- 自分より下に見下げること。「一二人ヲ見ル」
(白葡辞書)

<子項目>

直下型地震

ノード ①

node

- 節 (ふし)。また、結び目。
- 結節。集合点。中心点。
- 通信ネットワークや物流の中継点。拠点。

つゝる ① 【吊る・釣る】

● (動ラ五[四])

㊦他動詞

- 上で支えて下へ垂れ下げる。「蚊帳を一・る」「棚を一・る」
- 物の端を固定して高い所にかけ渡す。「ハンモックを一・る」「橋を一・る」
- 相撲で、両手で相手のまわしを引き相手の体をつり上げて両足が土俵から離れた状態にする。《吊》「土俵際に一・って出る」
- 釣り針をつけた糸を垂らして魚をとる。《釣》「フナを一・る」
- わなやおとりでけものや虫をとらえる。《釣》「トンボを一・る」「この年月狐を一・る程に」
(狂言・釣狐)
- 相手の気を引いたり、気に入るようなことをしたりして、こちらの望みどおりの行動をとらせる。《釣》「甘言で一・って契約させる」
- かごをかく。「女中駕籠一・らせて」(浮世草子・好色五人女・1)

㊦自動詞

- (多く「攣る」「瘞る」と書く) 筋肉などが瘞瘰 (けいれん) する。ひきつる。「ふくらはぎが一・る」「足が一・る」
- (「攣る」とも書く) 縫ったあとが引っぱられた状態になる。《吊》「ミシンの上糸が一・っている」
- 引っぱられたように上を向く。《吊》「目の一・った人」
- 糸図を書く。系統づける。「実清卿の子と為し之を一・る」(実隆公記)

可能 → つれる

● (動ラ下二)

→ つれる (吊) ・ つれる (釣)

テキスト ① ②

text

(テキストとも)

- 教科書。テキスト-ブック。
- 原文。原典。本文。→テキスト

<子項目>

テキストクリティック
テキストファイル
テキストブック
テキストレジー

し ① 【詞】

- ことば。文章。詩歌。
- 中国の歌曲の一体「填詞 (てんし)」のこと。
- 国文法で、単語を文法上の性質から二大別したものの一。橋本進吉の説では自立語をいう。時枝誠記の説では、概念過程を経て表現された語、すなわち、事柄を表現する語をいう。↔辞

てん 【点】

● ① (名)

- 筆やペンの先をちょっとつけて記したようなごく小さなし。「遠くの人が一のように見える」
- 【数】 数学では幾何学の対象の一。①を抽象化したもの。幾何学基礎論では、直線などとともに、無定義用語として、公理によって規定される。
- 書き物などに付ける小さいし。文の句切りの符号。普通「、」を使う。読点。注意を喚起するために語句の横に打つし。傍点。漢文を訓読するため、字に付す記号。返り点・乎古止 (をこと) 点など。
- 漢字の字画の一。「犬」「凡」などの「丶」。古くは、漢字の字画全般をいった。
- 灸 (きゅう) で、つぼの位置に墨で付したし。「一をおろす」
- 評価を表す符号・数値など。和歌・連歌・俳諧などで、評価を示す符号。「〇」「\」など。また、批評・添削。答案などにつける評価の数値や符号。「一が辛い」スポーツ・ゲームなどの得点。「一を取る」高く評価すること。「おいらは一だぞ」(黄表紙・孔子編于時藍染)
- 特に取り上げるべきところ。「その一については心配しなくてよい」
- 漏刻 (ろうこく) の時数。また、時刻。「御発句は寅 (とら) の一一」(浄瑠璃・百日曾我)

● (接尾)

助数詞。数を表す漢語に付く。

- 試合・勝負事、試験の答案などの得点・評点を数えるのに用いる。「一一先取した」「百一の答案」
- 品物の数を数えるのに用いる。「三一セット」「この五一を入賞とします」

<句項目>

点付く
点を打つ
点を掛く

なかで ① 【中手・点】

(「なかて」とも)

- 囲碁で、敵の地の中に打って眼形を奪う手。多く自分の石が取られてできた相手の地の中に打ち込み、三目中手・四目中手・五目中手などでは、打ち込まれた側の石が死ぬ。
- 両者の間に割ってはいること。また、その人。「遺手揚屋のかか走り出て意見をいたし、扱ひを掛けて一をおろす」(仮名草子・東海道名所記)

さへん ① 【サ変】

「サ行変格活用」の略。

ほうほう【方法】

【やり方】 a way, a manner (㊦ way より堅い語) ;
【組織的な】 a method, 【体系立った】 a system ;
【扱い方】 an approach ; 【手続き】 (a)
procedure (⇒手続き) 【手段】 a means (㊦ 単・
複同形) ; 【対策】 measures ; 【様式】 a style.

1 ～(の)方法

- ▶ 英語を教える最善の方法
the best *way [method]* of teaching English.
- ▶ 彼女独特の表現方法で
in a *manner* of expression particular to her.
- ▶ そのコンサートのチケットの入手方法
a *means* of getting [obtaining] a ticket for the concert.
- ▶ 従来の方法に従う
follow the usual [(伝統的な) traditional] *method*.

2 方法が[は]

- ▶ 人それぞれ違った練習方法がある
There are different *methods* of exercise for different people.
- ▶ 海外を旅行する最も安上がりな方法は何ですか
What is the cheapest *way of traveling [to travel]* abroad? / What is [are] the most inexpensive *means of traveling [×to travel]* abroad?
- ▶ それしか方法はない
It's the only *way* to go.

3 方法を

- ▶ この箱を開ける方法を知っていますか
Do you know *how* to open this box?
- ▶ 彼はその問題に対して分析的な方法をとった
He took an analytic *approach* to the problem.
- ▶ 彼らは新しい経営方法を導入した
They introduced a new management *system*.
- ▶ 彼はその実験の方法を学生に説明した
He explained to the students the *procedure for [to be followed in]* the experiment.
- ▶ その病気を予防するためにあらゆる方法を講じなければならない
We have to take every possible *measure* to prevent [all the preventive *measures against*] the disease.

4 方法で

- ▶ 私と同じ方法でもう一度やってみよう
Try it again in the same *way [manner, method]* as I did. (㊦ 他の2語と異なり, way では前の in と後の as は (話し) で省略されることが多い)
- ▶ 君がいちばんいいと思う方法でそれをやりなさい
Handle it *how [the way]* you think best.

方法論

- (a) methodology.
- ▶ 外国語教育の最も有効な方法論
the most effective *methodology* of foreign language teaching.

カレー

【料理】

(a) curry / kó:ri / ; 【カレーライス】 curry and [with] rice (㊦ 通例単数扱い) .

- ▶ 辛口[甘口]のカレー
a hot [a mild] *curry*.
- ▶ ビーフ[エビ]カレーライス
a beef [a shrimp] *curry* with rice.
- ▶ ドライカレー
curried rice.
- ▶ お昼にカレーを食べる
have *curry* for lunch.

カレー粉

curry powder.

カレー南蛮

curry noodles with (Welsh) onion in them.

カレー料理

(a) curry / curried food.

カレー

【フランスの都市】

Calais / kæléi / .

さむい【寒い】

1 【気温が低い】

cold; chilly. (⇒暑い)

使い分け

cold 「寒い」の一般的な語。
chilly cold より意味が弱く、何となく肌寒くぞくぞくする感じの不快感な寒さ。

- ▶ 今朝は寒いですね
(It's) a *cold* [a *chilly*] morning, isn't it?
- ▶ そんな薄着で寒くないですか
In such thin clothes, aren't you *cold* [don't you feel *cold*]?
- ▶ 明け方はひやっと寒かった
It was *chilly* [There was a *chill* in the air] toward dawn.
- ▶ 外はいてつくように寒い
It's freezing (*cold*) outside.
- ▶ 日が落ちると一段と寒くなった
When it got dark, it turned much *colder*. (㊦ 比較級の強めには very は用いない)
- ▶ こう寒くてはたまらない
I can't stand this *cold*. This *cold* is unbearable to me. (㊦ この cold はいずれも名詞)

2 【その他の表現】

- ▶ お寒い(貧弱な)福祉予算
a *poor* welfare budget.
- ▶ お寒いギャグ
a *bad* [a *pathetic*] joke.
- ▶ そんな話を聞くときが寒くなる
That kind of story makes me *sad*.

いろ【色】

1 【色彩】

(a) color; (a) hue; 【色合い】 a tint, a tinge; 【色彩の濃淡】 a shade.

使い分け

color 「色」を表す最も一般的な語。主に原色をさす。
hue color の詩的な語。混色で生じた淡く微妙な色調をさす。
tint ほのかに明るい色合い。
tinge tint より濃く色づけられ通例全体に広がっている色合い。
shade ある色の濃淡や明暗の度合い。

①～色

- ▶ 感じのよい色
a pleasant [a delightful] *color*.
- ▶ 濃い[薄い]色
a dark [a light] *color*.
- ▶ もっと薄い[明るい]緑色
a lighter [a brighter] *shade* of green.
- ▶ 赤は彼女の好きな色です
Red [×The red] is her favorite *color*. (㊦ 一口に赤といってもさまざまな色合いの赤があり, その中の特定の色をさす場合には the をつける: 彼女にはその赤は似合わない *The red* doesn't suit her.)
- ▶ 秋の色が深くなった
There are fall *colors* everywhere. It has become more like fall.

会話

- ▶ 「君の車は何色?」「赤だ」
“What *color* is your car? / What is the *color* of your car?” “It's red [×red color, ×red in color].”

②色は[が]

- ▶ その色はあせやすい
The *color* fades easily. (㊦ ×The color is easy to fade. とはいえない)
- ▶ それは色が桃の花に似ている
It resembles a peach blossom *in color*.
- ▶ 犬は色が識別できない
Dogs can't see [perceive] *colors*.

会話

- ▶ 「このバッグで黄色はありますか」「黄色はないですね。緑だけだと思います」
“Do you have this bag in yellow?” “We don't have it in yellow. Apparently, it only comes in green.”

一しよく【一色】

- ▶ 保護色
protective *coloration*.
- ▶ 地方色
local *color*.

せんたく【選択】 名詞

【二つ以上から選ぶこと】 (a) choice; 【三つ以上から最適なものの選抜】 (a) selection.

- ▶ 良書の選択
the *choice* of good books.
- ▶ 選択の自由
freedom of *choice*.
- ▶ スーツに合うネクタイの選択
the *selection* of a tie to go with a suit.
- ▶ 職業の選択を誤る
make a mistake in the *choice* of one's career / make a wrong [a bad] *choice* of one's career / miss one's calling.
- ▶ メニューの選択の幅はごく狭い
There isn't [We don't have] much *choice* in the menu.
- ▶ この件では私にまったく選択権はない
I have no *choice* at all in this matter.
- ▶ どちら[何]にするか選択に迷います
I don't know which to *choose* [what to *choose*, what *choice* to make].

a·sym·met·ri·cal, -·ric / èismétrik(ə)l,

形容詞 【通例名詞の前で】

- 1 非対称の(⇒symmetric(all)); 不調和の。
- 2 (かたく) 不平等な。

cor·pus / kó:r pəs /

【名詞】 複 corpora / kó:r(p)ə(rə) / , ~es / -iz /

- 1 (かたく) (特定の種類・作家の文書[資料]の)集大成, 集積。
- 2 【言】 コーパス, 言語資料(の集積)(→p. xii).
- 3 【解剖】 体 (たい) .
- 4 (人間・動物の)体; 死体。

C≧ Christi

(㊦ / -kristi /) 【カトリック】 キリスト聖体の祝日【Trinity Sundayの次の木曜日】 .

～ delicti

(㊦ / -dɪlɪktə /) 【法】 罪体 【犯罪の事実や物証】 ; (被害者の)死体。

～ lúteum

(㊦ / -lú:tɪəm /) 【解剖】 (卵巣の)黄体。

o·pus / ó:pəs /

【<ラテン】

【名詞】 複 opera / ó:p(ə)rə / , ~es ㊦ 【通例単数形で】

- 1 【しばしばO-】 音楽作品((略) op., Op.).
- 2 (一般に)芸術作品
▶ an *opus magnum* ≡ a magnum *opus*
大作, 主要作品。

Ò- Déi

オブスデイ 【ローマカトリック教会の一組織】 .

どんな【どんな】

連体詞

こと【事】

名詞普通名詞

が【が】

助詞格助詞→主語並立語連用修飾語

主語

接続←体言

←動詞の連体形

←助動詞の連体形

←助詞の「の」

ある【有る】

動詞

五段ラ行→推量--意志--

動詞型の連用形テ←補助動詞

未然形→[ウ]に連なる

とも【とも】

助詞接続助詞→順接逆接単純接続

仮定確定→事態が進行する--

接続←□□□□→

うごく【動く】

動詞

五段カ行→ラ行カ行ガ行→イ

連用形→[マス][タ]に連なる

イ音便→[タ][テ][タリ]に連なる

て【て】

助詞接続助詞→順接逆接単純接続

前から続いて次の動作へ状態の並行--

逆接

原因理由方法手段

接続←□□□□→

は【は】

助詞係助詞→区別同趣

強意類推限定程度例示列挙

判断の主題強意対比

連用形--テハ→スルたびごとに

接続←□□

いく【行く】

動詞

エエエルエルエレエヨエロ

下一段カ行

動詞型の連用形テ←補助動詞

未然形→[ナイ][ウ]に連なる

ない【ない】

助動詞

打ち消しナイ

接続←□□

終止形→言い切る

けいたいそかいせき【形態素解析】

←

「どんな事があるうとも動いてはいけない」の形態素解析の結果です

よぶ【呼ぶ】

動詞

五段バ行→ナ行マ行バ行→濁る

連用形→[マス][タ]に連なる

撥音便→[ダ][デ][ダリ]に連なる---

て【て】

助詞接続助詞→順接逆接単純接続

前から続いて次の動作へ状態の並行--

逆接

原因理由方法手段

接続←□□□□→

いる【居る】

動詞

上一段ア行

動詞型の連用形テ←補助動詞

連体形→[体言]に連なる

の【の】

助詞準体助詞

接続←□□

に【に】

助詞格助詞→主語並立語連用修飾語

場所時間結果到着点割り当ての基準

動作の目的使役の目標受け身の相手

強意--並立語を作る

接続←□□

へんじ【返事】

名詞普通名詞→スルデキル

も【も】

助詞係助詞→区別同趣

強意類推限定程度例示列挙

並列感動限度類推

不定称の代名詞→全部を否定または肯定

接続←□□

する【為る】

動詞

スル

名詞スル→デキルスル

未然形→[ナイ][ウ]に連なる

ない【ない】

助動詞

打ち消しナイ

接続←□□

終止形→言い切る

移動【いどう】

ある場所から他の場所へと位置を変えることである。

なお、地位や身分、職務が変わることは異動（いどう）の語が用いられる。



し①【詞】

① ことば。文章。詩歌。

② 中国の歌曲の一体「填詞（てんし）」のこと。

③ 国文法で、単語を文法上の性質から二大別したものの一。橋本進吉の説では自立語をいう。時枝誠記の説では、概念過程を経て表現された語、すなわち、事柄を表現する語をいう。↔辞

し【詞】漢字

① 言葉。文章。詩文。「詞華」「詞章」「詞宗」「詞藻」「詞林」「祝詞」「賞詞」「誓詞」「通詞（つうじ）」

② 単語。「助詞」「数詞」「動詞」「品詞」「副詞」「名詞」「形容詞」

いろ【色】

1【色彩】

(a) color; (a) hue; 【色合い】 a tint, a tinge; 【色彩の濃淡】 a shade.

使い分け

color 「色」を表す最も一般的な語。主に原色をさす。hue color の詩的な語。混色で生じた淡く微妙な色調をさす。

tint ほのかに明るい色合い。

tinge tint より濃く色づけられ通例全体に広がっている色合い。

shade ある色の濃淡や明暗の度合い。

①～色

▶ 濃い【薄い】色

a dark [a light] color.

▶ 赤は彼女の好きな色です

Red [×The red] is her favorite color. (?! 一口に赤といってもさまざまな色合いの赤があり、その中の特定の色をさす場合には the をつける: 彼女にはその赤は似合わない The red doesn't suit her.)

会話

▶ 「君の車は何色?」「赤だ」

“What color is your car?” / “What is the color of your car?” “It's red [×red color, ×red in color].”

③色は【が】

▶ その色はあせやすい

The color fades easily. (?! ×The color is easy to fade. とはいえない)

▶ それは色が桃の花に似ている

It resembles a peach blossom in color.

▶ 犬は色が識別できない

Dogs can't see [perceive] colors.

会話

▶ 「このバッグで黄色はありますか」「黄色はないですね。緑だけだと思います」

“Do you have this bag in yellow?” “We don't have it in yellow. Apparently, it only comes in green.”

この【此の】

連体詞

ばっぐ【バッグ-bag】

名詞普通名詞

イエロー②

yellow

① 黄色。黄。

② 黄色人種の蔑称。